医業経営の現場から

file097　中国・四国地区

地域の子どもと子育て世代を支えるために夜間・土日祝診療

開業のきっかけは輪番制の穴埋め

宮脇院長は開業前、愛媛大学医学部附属病院で小児血液腫瘍を専門にしており、開業の考えはなかった。心境が変化したきっかけは、皮膚科医の姉が開業し、「開業医には勤務医とは違った楽しさ、やりがいがある」といった経験談に刺激を受けたのに加え、松山市の小児科医療の実態があった。市では365日24時間の小児救急医療体制を掲げているが、カバーできていない時間帯があることを急患医療センターの当番勤務を通じて肌で感じ、子育て世代の親と子どもたちのために日曜祝日、夜は20時まで診療するクリニックが必要だと、2021年9月、開業に踏み切った。

受付待合は2～3階吹き抜け。「木」は同院のシンボル。「木」をモチーフにしたクリニックのロゴマークと同様に、大木のように地域に根を貼り、子どもたちの成長を見守りたいとの思いが込められている

薬局も夜間の調剤に全面協力

重視したのは街中での開業。「働く女性が増え、18～19時まで保育園に預けている親御さんもいます。仕事を終えて帰宅しても、急患センターが開く21時まで待たないといけない。そんな家族を応援したいと考えたのです」。

開業への思いは日に日に強くなったが、勤務を続けながら準備を進めるのは容易ではなく、家族や医業経営コンサルタントのサポートが大きな力になったと話す。「特にリフォーム物件だったのでハード面で苦労しました。街中とはいえ受付が2階というのも受け入れられるか心配でした」と振り返るが、杞憂に終わった。

もう1つの心配は夜間・土日の診療に対応してくれる1階の薬局の誘致だった。「小児科は0歳から15年ほど通うことになるので、当院のスタッフだけでなく、薬局薬剤師さんにも末長く子どもたちに関わり続けてもらいたいと考えていました。コンサルタントの方が、そこをよく理解してくださる薬局を誘致してくれ、とても感謝しています」。遅い時は22時近くになるというが、最後の患者が帰るまで開けていてくれる、まさに“医薬連携”だ。

他科連携の理想と現実

夜間や休日診療は患者にとってはありがたいが、スタッフの疲弊にもつながる。「スタッフに苦労を強いているのが悩みの種です。また妻から、『一番さみしがって

みやわきこどもクリニック　概要

■所在地　愛媛県松山市錦町6-7 TREEビル2F
■院　長　宮脇　零士
■診療科　小児科（火曜休診）

診察待合も子どもが飽きない工夫が。タブレットの貸し出しなども行っている。奥の3番扉はレントゲン室入口

授乳室は心落ち着く配色・家具で

もともと子どもが好きで医師を目指した当初から小児科医は決めていたと話す

付き添いのパパさんとも丁寧に向き合う

いるのは私たちの3人の子どもよ』と言われたこともあります。病気の治療はもちろん、子育てに奮闘する親御さんと一緒に子どもが健やかに育つ環境づくりをしたい医者と、わが子とふれあいたい父親とのバランスは正直なところ、すごく難しい。ただ、病気を患う子どもさんのためには納得するしかありません。そんな中でスタッフは本当によくやってくれていますが、つい理想を求めてしまうのは反省点です」と本音が漏れる。

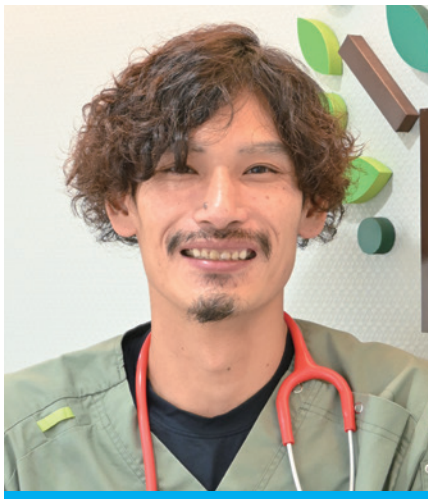
一方、「小児科は全身を診るのが仕事ですが、専門の先生にお願いしたい場合も多い。特に産婦人科、耳鼻科、眼科、皮膚科は切り離せないので、もっと連携していきたいです。最近、日曜診療の耳鼻科の先生と話をする機会を得たのでご縁を大切にしたい。土日祝と夜間診療、他院との連携がスムーズになり、次の世代が開業する際のモデルになれたら」と、地域医療への思いを語った。

地域とともに成長していきたいコンサルタントのアイデアを

開業から1年。コロナ禍による受診増からか、業績は伸びているが、スタッフとの情報共有や振り返りが十分でないまま走り続けてきた。だから見返す時間が欲しいという。コロナの終息を見据え、クリニックの維持に必要な体制も考えていく必要があると宮脇氏は考えている。

「近くで開業されていた小児科の先生は、70歳を超えても日曜診療をしていました。今はその先生を目標にしています。開業してみて、並大抵の精神力・体力では長続きしないとわかりましたが、地域のために夜間と土日祝日診療は守りたい。それには自分の健康やスタッフの生活、全部を見ないと長続きしないので、注意深く試行錯誤していきたい」と次の課題を語ってくれた。

宮脇氏は、診療だけが小児科の役割ではなく、育児相談や栄養相談も大事だと、クリニック3階で週1回、子どもたちと一緒にヨガや創作活動をする「ツリーくらぶ」というイベントを開催している。「親御さんも息抜きができて、みんなでできる地域に根差したイベントを提案していただけたら」と、コンサルタントからのアイデア提案もお願いいただいた。



院長　宮脇　零士 氏

2008年帝京大学医学部卒業。昭和大学病院にて臨床研修を経て2010年愛媛大学医学部附属病院入局。市立八幡浜総合病院、愛媛県立中央病院、東京医科歯科大学医学部附属病院、市立宇和島病院、2015年日本赤十字社松山日赤病院、2018年四国こどもとおとなの医療センター、愛媛大学医学部附属病院勤務を経て、2021年9月みやわきこどもクリニック開院。
日本小児科学会所属、小児科専門医。

スタッフの皆さんと。看護師8人（師長は右から2番目の男性）、事務スタッフ6人が在籍する

3階で週1回開催される「ツリーくらぶ」では様々なイベントを実施。写真はヨガ教室の様子

1階駐車場の一画に発熱外来を設置（上）。検査希望者が増え、現在隣接地に駐車場を拡張中（下）